



カバー写真について：

ナイジェリアのカドゥナにあるFulani Doka Mai-Jama'aの村人たちは、ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動のパートナー団体からの支援で設置された太陽電池式の井戸の水供給システムを使用しています。安全な水が得られるようになったこれらの地域では、疾病罹患率が減少し、生活の質が高まりました。



ROTARY INTERNATIONAL®
THE ROTARY FOUNDATION

Rotary.org



187-JA—(1119)

Rotary 

国際ロータリーの
ロータリー財団

2018-2019年度 年次報告





国際ロータリー2018-19年度理事会

会長
バリー・ラシン (バハマ)

会長エレクト
マーク・ダニエル・マローニー (米国)

副会長
ジョン C. マッシュズ (米国)

財務長
ピーター・イブラー (ドイツ)

理事
フランチェスコ・アレツォ (イタリア)
オラインカ・アキーム・ババロラ (ナイジェリア)
ジェフリー・カドレット (米国)
バスカー・チョカリンガム (インド)
ローレンス A. ディミット (米国)
ラファエル M. ガルシアIII (フィリピン)
石黒 慶一 (日本)
ロバート C. ニュプファー・ジュニア (米国)
三木 明 (日本)
文 銀洙 (韓国)
デイビッド D. スーバル (米国)
ブライアン A.E. ストイエル (英国)
ビョートル・ウィナンザック (ポーランド)
グレゴリー F. ヤンク (米国)
パウロ・オグスト・ザナージ (ブラジル)

事務総長
ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

ロータリー財団2018-19年度管理委員会*

管理委員長
ブレンダ・クレシー (米国)

管理委員長エレクト
ゲイリー C.K. ホァン (台湾)

副管理委員長
マイケル F. ウェブ (英国)

管理委員
ロン D. バートン (米国)
マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ (ブラジル)
ジョン F. ジャーム (米国)
メアリーベス・グローニー・セリーン (米国)
パー・ホイエン (デンマーク)
北 清治 (日本)
ジュリア D. フェルプス (米国)
K.R. ラビンドラン (スリランカ)
ケネス M. シュパート・ジュニア (米国)
グラム A. バハンバティ (インド)
尹 商求 (韓国)

事務総長
ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

*2019年6月30日現在

イーストナッソー・ロータリークラブ (バハマ) とバハマ・ナショナル・トラスト (BNT) による奉仕プロジェクトの一環として、ボーンフィッシュ・ポンド国立公園でマングローブを植樹するロータリアンとローターアクター。マングローブの生態系を回復させることでハリケーンによる沿岸地域の被害を抑えることができます。



10%消費者使用後の再生紙を使用
FSC森林認証
レインフォレスト・アライアンス認証
SFI認証ソーシング

ロータリーにはリーダーシップを磨く機会があります。今年、幅広い世代のロータリアンが素晴らしいリーダーシップを発揮しました。

会長と管理委員長の メッセージ



一世紀以上前、ロータリーは、人と人とのつながりを礎とする奉仕のリーダーシップという新しいモデルの先駆けとなりました。今日、このつながりは、世界に広がるネットワークとなって文化間、言語間、世代間、地域間に橋を渡し、より良い世界のビジョンを分かち合っています。

私たちは行動人として、このビジョンの実現には計画が必要であることを知っています。今後5年間のロータリーの行動計画は、「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」ことです。この計画は、年度から年度へのビジョンの継続性を生み、共通目標の達成に向けた前進を可能とします。

この共通目標を達成するのに重要な役割を果たすのがロータリー財団です。2018-19年度に財団は、募金目標額の3億8000万ドルを超える3億9500万ドル以上を集めました。これにより、2025年までに20億2500万ドルを集めるという恒久基金の目標達成にも大きく近づくことができました。

ロータリーのリーダーは、「機会」を生み出します。本年度ロータリアンは、世代を超えてその素晴らしいリーダーシップを発揮しました。ロータリー青少年交換、インターアクト、ローターアクト、ロータリークラブへの参加を通じて、ロータリアンは人びとの生活を変え、末永く続くインパクトをもたらしています。皆さまのたゆみないご尽力のおかげで、ロータリーは世界へのインスピレーションとなっているのです。

国際ロータリー
2018-19年度会長
ラリー・ラシン

ロータリー財団
2018-19年度管理委員長
ブレンダ・クレシー

今後5年間のロータリーの優先事項は、インパクトを高め、参加者の基盤を広げ、参加者による積極的なかわりを促し、適応力を高めることです。

ロータリーとは

末永く続く変化を生み出す

1905年にロータリーが創設されて以来、世界の人口構成は変わり、変化の速度は増し、テクノロジーによってネットワークと奉仕のための新しい機会が生み出されました。しかし、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ、つまりロータリーを定義する価値観は今も変わりません。これまでの功績を称え、未来を受け入れることで、私たちは進化を続けながら今日のニーズに取り組んでいくことができます。

2018年6月、理事会とロータリー財団管理委員会は、次なる戦略計画の土台となる4つの新しい戦略的優先事項と目的を承認しました。私たちの「行動計画」となるこの計画は、今後も世界中の地域社会に変化をもたらすダイナミックな団体として評価されるための、未来の枠組みとなります。

人間的・職業的な成長を後押し

ロータリーは、奉仕に熱意を注ぐ会員が、人として、また職業人として成長するのを手助けします。ロータリアンとローターアクターは、それぞれのクラブでの卓話、ネットワークづくり、募金活動、チームビルディング、イベントの計画などを通じて、リーダーシップスキルを磨くことができます。

ロータリークラブへの入会を一度断ったことのあるデリ・リーヴィ・イェンスンさんが気持ちを变えたのは、イスラエルを訪れたときのことでした。イェンスンさんはイスラエル訪問中、ロータリー会員が投与するポリオワクチンを待つ子どもたちの姿を目にしました。これに心を動かされたイェンスンさんは、母国デンマークに戻るとへ

アニング・インターナショナル・ロータリークラブを結成。新クラブについて初めて会う人びとに声をかけていくうちに、人前で話すことを恐れなくなったそうです。現在は、講演、指導、研修など、リーダーシップ開発の分野で活躍しています。

革新的なクラブのモデル

ロータリーは、新世代のリーダーの多忙なスケジュールや進化する関心に沿った革新的なクラブのモデルを支持します。例会の形式に柔軟性を持たせ、地元や世界で直接奉仕する機会を提供しながら、今日の事業リーダーや地元リーダーのニーズに応えています。

会員基盤の多様化を図る

会員基盤の多様化は、クラブレベルと事務局で、私たちが奉仕する地域社会を正確に反映するためにロータリーが取り組む最優先事項の一つです。この目標への決意を強調するために、理事会は、多様性、公平さ、開放性に関する次のような声明を採択しました。

「ロータリーは、持続可能な変化を生むために人びとが手を取りあって行動する世界を目指すグローバルネットワークとして、多様性を重んじ、年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会的地位、文化、性別、性的指向、性自認にかかわらず、あらゆる背景をもつ人の貢献を称えます。

ロータリーは、少数派グループが会員およびリーダーとして参加できる機会が多く存在する多様で、公平で、開放的な文化を育みます」

私たちは、「世界を変える行動人」として地域社会の改善を目指し、奉仕を通じて末永いインパクトを直接もたらしています。

私たちは、手を取り合って世界的な課題の解決に取り組んでいます。

私たちは、事業・職業のリーダーや市民のリーダーとの親睦を通じて高潔性を推進しています。

私たちは、共に、地域社会と自分自身、そしてロータリーの未来にさまざまな形で変化を生み出しています。

常に先を見ながら進むリーダーとして、私たちは、ロータリーの特徴でもある、クラブ、奉仕、学びの機会を現・未来の世代にも提供していく新しい方法を模索しています。

ローターアクトが加盟クラブの一種に

これまでプログラムの一つであったローターアクトの立場が高められ、国際ロータリーの加盟クラブの一種となりました。ロータリアンとローターアクターは、会員としての体験は異なるものの、奉仕のパートナーとして、持続可能な変化を生み出すために協力しています。

新しい種類の補助金

ロータリーは、ロータリー重点分野の一つ以上に沿った複数年にわたるプログラムを毎年1件支援するため、申請競争率の高い新しい「大規模プログラム補助金」を現在開発しています。大きなインパクトを与えることに焦点を当てたこの補助金は、地域社会が特定したニーズに取り組み、広大な地域および／または人口の多い地域において測定可能な成果とインパクトを与えることを目的としています。

ロータリーは、大規模プログラム補助金を通じて、他団体と協力の下、証拠に裏付けられた大規模なプロジェクトを実施し、世界中の人びとにさらに大きなインパクトをもたらすことができます。この補助金により、広大な地域または地域全体のニーズに大規模な解決策を実施するための専門知識や能力を会員が身につけることができます。

重点分野を一部改称

ロータリー財団管理委員会は、グローバル補助金の受領資格をより明確にし、プロジェクトの種類を加え、環境に取り組む活動をクラブがより多く実施できるようにするために、ロータリーの重点分野に関する変更を承認しました。以下は、現在ロータリーが重点的に取り組んでいる分野です。

- 平和構築と紛争予防
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 地域社会の経済発展

ロータリアンへの支援

国際ロータリーへの会費は会員一人につき64ドルです。この収入は、会員、クラブ、地区への支援のために活用されます。会費収入は以下のように配分されます。

21.95	プログラムと会員への支援
13.97	IT・運営・管理業務
10.96	コミュニケーション
6.15	国際業務
4.16	ガバナンスと役員
4.01	財務
2.80	人事・法務・監査

変化の草分け

2018年、ケニアのナイロビで開かれた「国連でのロータリーデー」にて、ロータリーとローターアクトの会員6名が、「世界を変える行動人：若いイノベーター（People of Action: Young Innovators）」として表彰されました。この賞は、新しいアイデアを通じて変化の草分けとなった人びとの貢献を称えるものです。

	アルバート・カフカ さん（ウィーン・シュタットパーク・ローターアクトクラブ、ウィーン・オーバー・ロータリークラブ、オーストリア）は、メンタリングの機会を提供し、世代を超えた奉仕を促進する「Intarconnect」というオンラインのプラットフォームを立ち上げました。
	チャーリー・ルース・カストロ さん（ソガモソ・グローバル・ロータリーEクラブ、コロンビア、ボヤカ）は、コロンビアの刑務所に収監されている女性に職業スキルを教えるプログラムを実施しています。
	クリスティーナ・ハサン さん（カルガリー・フィッシュ・クリーク・ロータリークラブ、カナダ、アルバータ州）は、ウガンダの病院で助産師の研修を行い、安全で消毒済みの分娩器具を提供する「FullSoul」という非営利団体を設立しました。
	ポール・ムシャホ さん（ナキバレ・ローターアクトクラブ）は、ウガンダの難民居住地にローターアクトクラブを設立しました。同クラブは、難民キャンプ内で奉仕プロジェクトを実施し、メンバーは家族のような絆を深めています。
	シャドラク・ニャワ さん（キリフィ・ロータリークラブ、ケニア）は、ケニアの僻地に赴き、支援を必要とする学校にトイレや手洗い場を提供しています。
	ルドヴィク・グロジャン さん（メルボルンシティ・ローターアクトクラブ、オーストラリア、ビクトリア州）は、汚染を監視し、水路から汚染物を取り除く技術を開発する「Ocean CleanX」社を設立しました。

「経済用語で語るなら、ロータリーは、社会的・経済的問題の解決において、拠出する費用の9倍近くの恩恵を毎年生み出している」
—ジョンス・ホプキンス大学市民社会研究所

ロータリーのバリュー (価値)

世界を変える

ジョンス・ホプキンス大学の市民社会研究センターがまとめた特別報告書によると、ロータリアンが通常1年間にボランティアに費やす時間は、4700万時間近くと推定されています。これは、およそ8億5000万ドルに相当する社会奉仕活動です。

報告書の中で研究者は、「経済用語で語るなら、ロータリーは、社会的・経済的問題の解決において、拠出する費用の9倍近くの恩恵を毎年生み出している」と記しています。

持続可能でインパクトの高いプロジェクトを支えるグローバル補助金を通じた活動は、ロータリアンが地域社会を改善する一つの方法となっています。昨年度の補助金件数とその総額は以下のとおりです。

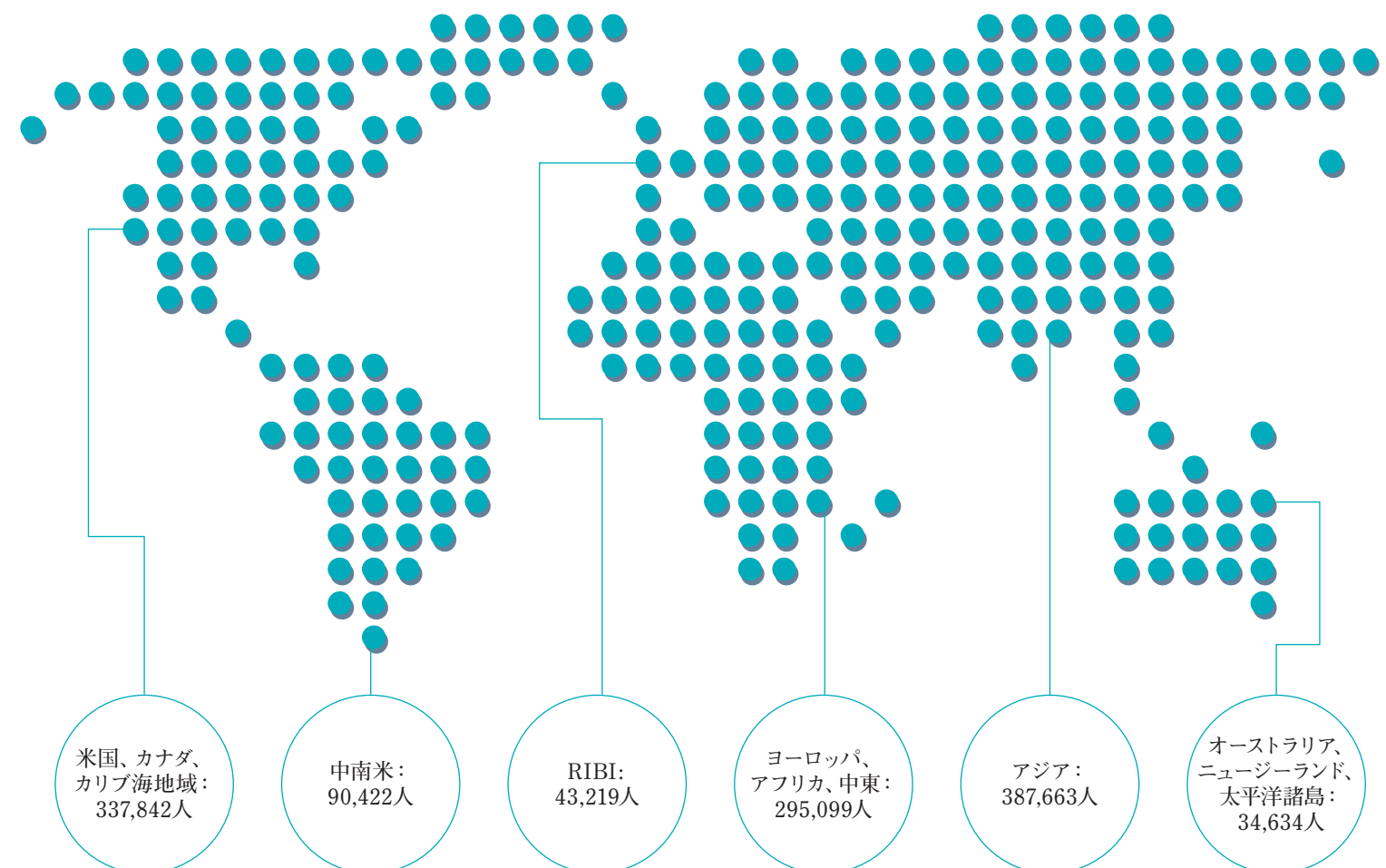
重点分野	補助金の数	支給額の総額
基本的教育と識字率向上	174	\$12,489,951
地域社会の経済発展	203	\$11,728,231
疾病予防と治療	555	\$40,310,114
母子の健康	113	\$8,980,504
平和構築と紛争予防	74	\$3,444,222
水と衛生	284	\$20,941,849
総額	1,403	\$97,894,871



数で見るロータリー:



地域別のロータリアンの数:





ロータリーは、募金活動、認識向上キャンペーン、「世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）」のパートナーとしての活動を通じて、ポリオ根絶の取り組みの先頭に立っています。ロータリーは、次の5つのような形で成果を生み出しています。

世界の子どものために 未来を変える

① ポリオの症例数が劇的に減少

1988年、ポリオの症例数は、125カ国で推定35万件でした。2018年に報告された野生型ポリオウイルスによる症例数は33件で、これらはいずれもアフガニスタンとパキスタンの2国におけるものでした。これは、世界的にポリオの症例数が99.9パーセント減少したことを意味します。

② ナイジェリアでポリオ根絶に向けた画期的進展

ナイジェリアでは、野生型ポリオウイルスによる症例が3年以上報告されておらず、まもなくポリオ常在国のリストから外される可能性があります。ナイジェリアでの成果に貢献したのが、定期的な予防接種活動やポリオ検出活動の拡大、また地域社会や関連機関との連携です。

③ 大胆な戦略で、より多くの子どもに予防接種

新しい取り組みにより、より多くの子どもが予防接種を受けています。ナイジェリアのチャド湖周辺では、保健ワーカーが新しい技術を使い、より綿密な予防接種計画を立てています。また、これまで離島にワクチンを届けるには数日かかっていましたが、現在ではスピードボートを使い、数時間でワクチンを届けられるようになりました。

④ 新しい解決策で活動を前進

ロータリーは、困難があってもそれを機会に変えます。予防接種キャンペーンへの抵抗が見られていたアフガニスタンでは、ロータリアンが政府やGPEIのパートナーと協力し、地元リーダーと会い、誤解を解き、地域社会での理解を促しました。ロータリーはまた、アフガニスタンとパキスタンの国境を往来する人びとにワクチンを投与するための常駐所の設置に資金を提供しました。

ブラジルでは、衛生当局が予防接種率の危機的な低下を報告したことを受け、ロータリークラブが政府と協力して活動に乗り出し、ポリオの流行が起こる前にこれを食い止めました。この活動で2カ月間に1100万人以上の子どもが予防接種を受けました。

⑤ ほかの活動でもポリオ根絶を後押し

ロータリーは、ポリオ根絶活動を通じてほかのさまざまなニーズに取り組んでいます。ポリオが蔓延するパキスタンの一部地域は、安全な水や適切な衛生設備がないため、さまざまな保健問題を抱えています。ロータリーは、パキスタン・コカ・コーラ社と協力して、リスクの高い地域に太陽光で稼働する浄水施設を設置しています（2016年以来、国内で12の施設を設置）。これも、ポリオプラスの「プラス」部分がもたらす恩恵の一つです。

ロータリーは、教育、人と人とのつながり、職業でのつながり、奉仕と学びの機会を通じて、次世代のリーダーがその可能性をフルに発揮できるように支援しています。

次世代のリーダー

インターアクトの力

チュニジアのチュニス・インナーシティ・インターアクトクラブのメンバーが、地域社会を変える十代の若者の姿を紹介し、同世代の若者たちに行動を呼びかけました。メンバーは、学校のリサイクルプログラム、植樹活動、職能開発、護身術クラスの支援など、クラブが行う多くのプロジェクトを紹介する2分間の動画を制作。動画の中で何よりも強く描かれていたのは、奉仕への献身とメンバー同士の協力の姿でした。この動画は「2018年インターアクト・ビデオ賞」を受賞し、今後の活動資金としてクラブに1,000ドルが贈られました。

2018年に10回目を迎えたインターアクト・ビデオコンテストでは、35カ国から過去最多の198件の応募がありました。このコンテストへの人気が高まる中、より多くのクラブが、リーダーシップスキルを培うインターアクトの力を伝え、それぞれの地元で変化を生み出す若者を支援しようとしています。

政治の道で変化をもたらす

2018年の夏、25歳のマキシミリアーノ（マックス）・トレドさんは、メキシコのタバスコ州で行われた公職選挙に最年少で出馬しました。当選しなかったものの、この時の経験はトレドさんに大きな影響を与えました。現在、契約弁護士を務めるトレドさんは、今日リーダーとして活躍できるのはロータリーのおかげと話します。

ロータリーは、子どもの頃からトレドさんの生活の一部でした。叔父と叔母は長年のロータリアンで、兄もロータリー青少年交換でオーストリアに留学。トレドさんも同じ道に進み、ローターアクトにも入会しました。新クラブを共同創設したトレドさんは、新世代交換でドイツを訪問しました。

これらの経験がトレドさんのリーダーシップの土台となりましたが、政治に参加するきっかけとなったのは、2017年にメキシコを襲った大地震でした。地元と海外とのつながりを利用して、兄とともに被災地の支援にあたりました。選挙への出馬を勧められたのはこの直後でした。

外国で得たアイデアを地元でも活用したいと望むトレドさんは、現在、ピラエルモサ・ロータリークラブの会員となり、より良い変化を生むために今後も地元で政治に関わっていこうと考えています。

「私は何かを実行できる立場にあります。人びとは変化を待ち望んでいます。必要なのは、変化の模範とリーダーシップを示すことです」

—マックス・
トレド
ヴィラハルモ
サ・ロータ
リークラブ
(メキシコ)



ハチの保護にローターアクトが活躍

気候変動、都市開発、殺虫剤の使用などによって、ハチの数は世界的に減少しています。健全な生態系にはハチが必要であることを知っているドイツのローターアクターは、「Beelive」プロジェクトを立ち上げました。

ケンプテン・アルゴイ・ローターアクトクラブによる活動はその一つで、会員は約2,973平方メートルの草原を整備し、ハチが授粉する野草の生息地を確保しました。またドイツ全国で、ローターアクトクラブ、地区、ロータリアン、ロータリーの友人が、9,290平方メートル以上の「ハチの草原」を整備しました。

木と竹だけで作られた「ハチの巣箱」も、ハチが安全に巣を作る場所となります。この「Beelive」プロジェクトでは、目標の500個を超える何千個もの巣箱が作られました。

費用がかさむハチの保護のために、ローターアクターはさまざまな募金活動を行いました。パーダーボルン・ローターアクトクラブは、ハチにまつわるクイズ大会を実施。また、「ハチの巣箱」や蜜ろうのリップクリームなど自家製のハチ関連商品を販売したクラブもありました。ハンブルグで開催された2019年ロータリー国際大会中には、地元の配車サービス会社MyTaxiが25,000米ドル以上をBeeliveプロジェクトに寄付しました。

地域社会への奉仕

嵐が過ぎ去ったあと

プエルトリコで24時間近くも猛威を振るったハリケーン・マリアは、時速155マイル（250キロ）の暴風と集中豪雨をもたらし、過去80年間にプエルトリコを襲ったハリケーンの中で最強のものとなりました。

国土の大部分が被災し、電気、水、医療が利用できなくなり、ガソリンと食糧もなくなりました。そこで支援の手を差し伸べたのがロータリーでした。

エル・マニという漁業の町では、マヤグエス・ロータリークラブが家屋の再建費を援助。地元のリーダーと協力し、援助を切実に必要としながら米連邦緊急事態管理局（FEMA）による復興援助の対象とならない被災者を探し、1年間で22世帯の家の修理を援助しました。そのほとんどが屋根の張り替えを必要としていました。米国全国のクラブからも約5万ドルの義援金がマヤグエス・ロータリークラブに送られました。

一方、島の反対側の地域では、サンファン・ロータリークラブが食糧、水、30万袋のベビーフードを住民に届けました。ロイサでは、雨水で濡れたマットレスを同クラブが新しいものに取り替えました。

またクラブ会員が劇団を結成し、地元の若者たちに精神的サポートを行いました。学校が閉鎖され、停電が続く中、十代の若者がごぞって劇団に参加。さらに、ロータリーのグローバル補助金によってこの演劇プロジェクトが拡大されました。この補助金を資金面で支援したのは、サンファン・ロータリークラブの元会員、ロバート・マリーさんとエディット夫人です。ご夫妻は、プエルトリコ復興支援としてロータリー財団に100万ドルを寄付。現在はアリゾナ州スコッツデール・ロータリークラブに所属するマリーさんは、今も被災地への支援を続けています。

下水管も水道も通らない僻地の村、ルビアスでは、住民が近くの小川から電動で水を引くための設備を整えました。またヤウコ・ロータリークラブが、「Water Is Life」という団体と協力し、ルビアスとほかの2つの町に太陽光で稼働する「サンスプリング」浄水器を設置しました。

2019年、ロータリー財団は、これまでのロータリーの災害救援活動を補う新しい「災害救援基金」と「災害救援補助金」を設置しました。災害救援補助金は、自然災害により被災した地域での救援と復興活動を支援するための補助金です。この補助金は、災害救援基金への寄付によって賄われます。

ロータリーは、人びとの生活を変えようとしています。その中で自分たちにも変化が生まれるのです。

ークリスティーナ・フォン・ヒレブラント・アンドラーデ（プエルトリコ、マヤグエス・ロータリークラブ）



「彼女はこう言いました、『これが私のロータリアンスマイルです』と。とても報われた気持ちになりました」

—リカルド・ロマンさん
(レニャーカ・ロータリークラブ会員)

笑顔の理由

チリでは、口唇口蓋裂のある子どもが年に約600人生まれています。政府が8カ所の治療センターを設立しましたが、その順番待ちリストは長く、手術まで何年も待たなくてはなりません。この現状を何とかしようと立ち上がったのがロータリー会員でした。

パルパライソのレニャーカ・ロータリークラブの会員、リカルド・ロマンさんは、口唇口蓋裂やその他の先天性疾患のある子どもを支援するプログラムの全国コーディネーターを2004年から務めています。チリでは、同プログラムを通じて何千人もの子どもが恩恵を受けています。チリのロータリアン、ローターアクター、医師が米国のロータリアンや医療従事者とチームを組んで、再建手術を行い、多くの子どもの人生を変えてきました。

プログラムへの支援はさまざまなところから寄せられています。近くの鉱業関係者が資金を援助し、地元のロータリアンが医療チームの食事、宿泊、国内交通を手配し、その費用を負担しました。飛行機代は医師たちが自己負担し、ローターアクターやロータリアンが通訳となりました。

ある土曜の朝、イクイケにあるエルネスト・トレス・ガルダメス病院の外に250人を超える患者の行列ができました。外科医、麻酔医、看護師からなるチームが、口唇口蓋裂、耳の再建、乳房再建、その他の目的に使われる4つの手術室を準備。ニーズと手術の複雑さを考慮して患者を選び、82名に手術を行いました。完全な再建に複数回の手術を要する患者も多く、中には数年間、毎年手術を受けなければならない人もいます。

世界各地のロータリアンからの支援のおかげで、今日、何千人ものチリの子どもたちが健康な生活を送っています。

地域社会調査の重要性

コロロ・カンバラ・ロータリークラブ（ウガンダ）と、そのグローバル補助金パートナーである第9980地区（ニュージーランド）は、ウガンダのルゴという村で Adopt-a-village（村全体支援）プロジェクトを立ち上げました。地域経済の発展を助けるこのプロジェクトは、まず村のリーダーたちと話し合うことから始めました。

教師、役人、長老、医療関係者、若者たち、宗教指導者、その他の重要人物を招き、地域社会調査を実施したことにより、村の事情や最大のニーズについて学ぶことができました。

地域社会調査を効果的に行うことで、地元のニーズ、リソース、専門能力を直接知る住民たちの視点がもたらされ、住民からの協力とプロジェクトの長期的な支援が得られるようになります。地域社会調査を行わなければ、多くの Adopt-a-village プロジェクトは持続できません。

ルゴでの調査では、経済の発展、教育、保健、水と衛生に関するニーズが明らかになり、その結果、牛、ミシン、本、学校机が寄贈されました。また、村人から成る保健チームが結成され、安全な水を得るための掘り抜き井戸と貯水システムが作られました。

ロータリー平和フェローは、平和構築と紛争予防のキャリアに携わりながら、世界中で力強い地域社会づくりに貢献しています。

平和を築く

変化の種をまく

2011年、スペンサー・レオンさんは、農業用種子を生産するタイの会社で有機栽培部門を立ち上げるため、タイに移住しました。有機食品への需要は増え続けると確信していたスペンサーさんですが、ただ金銭的利益を追求するのではなく、何か良いことをしたいと考えていました。

そこでレオンさんは、第3450地区（香港、マカオ、モンゴル、中国）から初のロータリー平和フェローとなり、バンコクのチュラロンコーン大学のロータリー平和センターに留学。その後、「Go Organics」社を設立し、約2万平方メートル以下の農地で作物を育てる農業経営者の生産性と持続可能性の改善に取り組むこととなりました。

小規模の農業経営者に経済的安定をもたらすことが平和の推進につながる、という考えから、同社は、農業経営者が市場で力をつけられるようにするために専門知識、費用効果の高い技術、事業革新に必要な物資を提供しています。

難民支援

2017年8月以来、ミャンマーのラカイン州での暴力を逃れ、100万人近いイスラム教徒ロヒンギャ難民がバングラデシュのコックスバザール地区へ避難しました。サクン・ガジュレルさんは、ロータリー平和フェローシップでの活動の一環として、国連女性機関とともに、大規模な難民キャンプで女性と子どもの支援にあたりました。多くの女性と子どもたちは、シェルター、医療、教育リソースの不足に加え、高まる性暴力へのリスクに直面していました。

国連女性機関は、多目的女子センターを通じて、女性や少女が難民キャンプで受けられるサービスや機会について情報を提供しています。あるセンターでは、ロヒンギャの女性約20人が女性たちへの対応にあたっています。また、複数の提携団体が技術研修を行っています。

しかし、これらの活動だけでは十分ではありません。ガジュレルさんは次のように話します。「教育を受ける機会や生活を向上させる機会をまったく得られない世代を出さないために、長期的な解決策が必要不可欠です」

「農業経営者の生活水準、つまり持続可能性を高めることができれば、世界に多くの変化を生むことができます。その成果に期待しています」

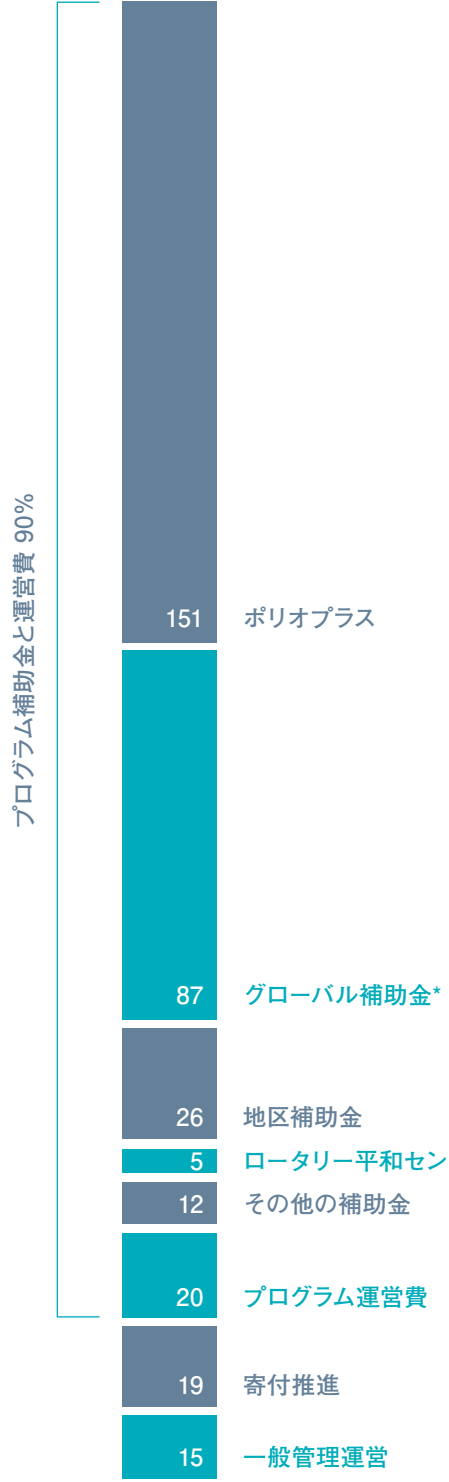
—スペンサー・レオンさん
(ロータリー平和フェロー)



ほぼすべての国で活動する世界的な団体として、ロータリーは資金管理を慎重に行っています。

財務

ロータリー財団の
支出：3億3500万ドル



*返金その他調整後

国際ロータリー 収支報告

2018会計年度と2019会計年度（6月期）（単位1000米ドル）

会計年度累計	2018年6月	2019年6月
収入		
会費	\$73,330	\$77,713
投資純益	3,265	2,092
支援業務その他の活動	27,803	33,404
収入合計	\$104,398	\$113,209
支出		
運営費	\$79,394	\$79,213
支援業務その他の活動	19,471	26,944
一般剰余金	1,196	667
支出合計	\$100,061	\$106,824
為替差損	\$(1,080)	\$(617)
純資産の増加	\$3,257	\$5,768
純資産（期首）	\$136,839	\$140,096
純資産（期末）	\$140,096	\$145,864

ロータリー財団 収支報告

2018会計年度と2019会計年度（6月期）（単位1000米ドル）

会計年度累計	2018年6月	2019年6月
収入		
寄付	\$341,135	\$321,901*
投資純益	55,322	37,975
補助金その他の活動	1,751	640
収入合計	\$398,208	\$360,516
支出		
プログラム補助金	\$277,225	\$281,091
プログラム運営費	24,892	20,275
寄付推進	20,117	19,049
一般管理運営	5,304	14,790
支出合計	\$327,538	\$335,205
為替差損	\$(1,608)	\$(661)
誓約未収入金のための予備費	\$(440)	\$(1,673)
純資産の増加	\$68,622	\$22,977
純資産（期首）	\$1,058,676	\$1,127,298
純資産（期末）	\$1,127,298	\$1,150,275

*予測収入5840万ドルおよびポリオプラス基金振替の額1490万ドルは含まれていません。

2018-19年度ソサエティ新会員とこれまでリストに未掲載だった会員

アーチ・クラumpf・ソサエティ

財団サークル

(寄付額1,000,000～2,499,999ドル)

- 匿名 (1)
Dennis L. Crawford, United States
Dakoju Ravishankar and Paola, India
Carlos E. and Martha Sandoval Delgado, Mexico
Paul N. Geisel, United States
Vishram J. and Kusum Patel, Seychelles
Patrick S.C. Poon and Wendy Y.P. Fok, Hong Kong
Paul F. and Carolyn C. Rizza, United States

管理委員長サークル

(寄付額500,000～999,999ドル)

- Carmen Siniscalchi Bellia, Italy
Paul Man-Long Iec and Sarah Lo, Macau
Jean Paul Jacob, United States
Kyu Hang Lee and Hee Sun Park, Korea
Mary Louise Meininger, United States

管理委員会サークル

(寄付額250,000～499,999ドル)

- 匿名 (8)
Sam and Mary Adams, United States
Sir (Dr.) Kesington A. and Chief (Mrs.) Kofoworola A. Adebutu, Nigeria
Pamela Akins and Barry Levinson, United States
An Jae Won and Kwak Moon Se, Korea
Jong-Sun Baek and Mi-Jung Kwon, Korea
Dennis and Sylvia Benko, United States
Dee and Sue Boswell, United States
Glenn H. and Carey A. Campbell, United States
Hee-Byung Chae and Hee-Ja Hong, Korea
Amit and Archana Chandra, India
Saeho David Chang and Sun Kim, Korea
Chao, Tien-Shin Falton and Chao, Fang Ching-Cheng, Taiwan
Sophie K. Chiang and Phylo Chiang, Taiwan
John R. Daily, United States
Sarah P. Deloraya-Mateo and Atty. Arnel Mateo, Philippines
Jay and Linda Eastman, United States
Andrea and Herbert Ederer, Austria
Alexander and Nora Falk, United States
Melvin T. Greene, United States

- Dr. Oliver Grosz and Dr. Karen Grosz, United States
Hyung-Soo Han and Ok Soon Lee, Korea
Urs and Marlène Herzog, Switzerland
Dr. Y.C. Ho and Mrs. Linda Ho, Hong Kong
細川 吉博・美由紀 (日本)
Ted and Angela Huffhines, United States
飯村 愼一・聡子 (日本)
Nihchal H. Israni, India
Kishorilal F. and Nirmaladevi K. Jhunjhunwala, India
James and Mary Johnson, United States
Jung Byung Sung and Heo Myung Sook, Korea
Kang Choong Hyun and Kim Jenny, Korea
Ki-Yong Kang and Jung-Hwa Lee, Korea
Vanessa Kao, Taiwan
Rich and Diana Kaye, United States
Taizoon and Edith Khorakiwala, India
Mi Young Kim and Heun Gu Lee, Korea
Sung-Sin Kim and Jong Ja Kang, Korea
國友 昌大 (日本)

- Jetu and Emma Lalvani, India
David L. and Susan I. Langendorfer, United States
Lee Keun Chul and Shin Yong Sook, Korea
Soon-Nyeo Lee and Woon Seok Kim, Korea
Liao Chun-Ching and Tsai Ya-Lun, Taiwan
Dries Lötter, South Africa
Jon D. Luckstead, United States
Ravindra Reddy and Sarala Devi Marri, India
Kathleen and Frank Mayhew, United States
J.C. and Pam McKenzie, United States
James F. and Catherine A. Moore, United States
Tamton and Rahma Mustapha, United States
Sang-Woo Nam and Ok-Sun Kim, Korea
Taek-II Nam and Ok-Hee Cho, Korea
野口 英一・若菜 (日本)
Firoz and Sheila Peera, United States
Uday and Roopal Pilani, India
Vijayalaxmi Poddar, India
Ronald (Ronney) and Mary Reynolds, United States
Fred C. Robey, United States
Joaquin “Jackie” Rodriguez, Philippines
Pallabi and Jai Saboo, United States
Abul Hasan M. Sadeq and Saleha Sadeq, Bangladesh

- Chongmet and Valairat Sapkiree, Thailand
佐々木 昌敏・藤枝 (日本)
Ronald and Cynthia Sekkel, United States
Wen-Chao Shen and Shu-Hua Lin, Taiwan
Young-Min Shin and Yong Seon Park, Korea
Asa Singh and Jagdish Kaur, India
Carl Stutts and Tessa Lesley, United States
立野 純三 (日本)
Theenachandran and Vasanthi, India
Ann E. and John P. Treier Jr., United States
Mary Ellen and Bob Warner, Jr., United States
Kevin and Jennifer Weist, United States
George and Beverly Yeiter, United States
Yong Kyu and In-Sook Yi, United States
Yeong Ho Yun and Hae Suk Lee, Korea
Md.Nasser Shahrear Zahedee, Bangladesh
George and Noreen Ziebold, United States

アーチ・クラumpf・ソサエティ ファミリーサークル会員

(25万ドル以上を寄付した現ソサエティ会員の家族)

- Wylene C. Bryant, United States
Honored by Chantal and Tommy Bagwell
Jonathan Chin, Taiwan
Honored by Chia-Hung Chin and Chia-Mei Chang
Ching-Ting Kuo, Taiwan
Honored by Po-Te Kuo and Su-Yueh Kuo Wei
Kelvin Y.C. Wang, Taiwan
Honored by May Chin-Mei Lu

寄付する理由



タン・ヒャン・シンさん

シンガポール

アーチ・克蘭フ・ソサエティ財団サークル

「ロータリー財団は組織として優れ、管理も行き届いています。すべてのロータリアンが、できる限りの支援を財団に送るべきだと思います」



チン・チア・ハンさんとチャン・チア・メイ・さんご夫妻

台湾

アーチ・克蘭フ・ソサエティ管理委員長サークル

「ロータリー財団に寄付し、世界にインパクトを与える機会が持てたことを幸運に思っています」



**パトリック S.C. プーンさんと
ウェンディ Y.P. フォックさんご夫妻**

香港

アーチ・克蘭フ・ソサエティ財団サークル

「世界で最も素晴らしい奉仕団体に寄付できることをとても幸運に思います。力強いロータリー財団は、力強い国際ロータリーをつくります。それは、より良い国際社会の実現にもつながります」



スン・ニョ・イさんとウン・ソク・キムさんご夫妻

韓国

アーチ・克蘭フ・ソサエティ管理委員会サークル

「寄付することは、私たちの人生に大きな喜びをもたらしてきました。若者が学びの機会を持ち、リーダーシップを培うことができれば、それは未来への大きな原動力となるでしょう。私たちは寄付によってそれを助けたいのです」



藤林 豊明さんと直美さんご夫妻

日本

アーチ・克蘭フ・ソサエティ管理委員長サークル

「幼い頃住みし長崎、暑い夏のある日、鳴り出すサイレン、船の汽笛そして教会の鐘。立ち止り、黙祷する人々。長じて、ロータリーに入会し、多くの人の世界平和活動に感動したのが、私のメジャードナーの道程の始まりでした」

ロータリーは、世界中のさまざまなパートナーと協力して地域社会を変え、より大きなインパクトをもたらし、重要な分野における活動を広め、世界的なつながりを築いています。

パートナーとの協力



水と衛生への新たなアプローチ

安全な水、衛生施設や衛生リソースの不足は、世界で最も大きな保健問題の一つです。これはまた、解決が最も難しい問題でもあります。

10年以上にわたり、ロータリーは 米国国際開発庁 (USAID) とのパートナーシップを通じて、水と衛生に関連するプログラムを実施し、発展途上国に持続的で大きなインパクトをもたらしています。これは、ポリオ根絶を除き、ロータリーで最大規模のパートナーシップの取り組みとなっています。

官民共同によるこの特別なパートナーシップでは、ロータリアンのビジネススキルと地元でのリーダーシップ、またUSAIDの技術的な専門知識と政府とのつながりが生かされています。

過去10年間、ロータリーとUSAIDは共同で、ドミニカ共和国、フィリピン、ガーナ、ウガンダ、および間もなく決定される最後の国に対し、1800万ドルを寄託してきました。

10年間にわたるパートナーシップで学んだ教訓は、WASHにおける持続可能で革新的な解決策をもたらしてきました（アドボカシー、モニタリング、地域社会の管理機構への投資を増やすことなど）。

ポリオ根絶活動のパートナー

国際ロータリーは、以下の組織とともに、世界ポリオ根絶活動 (GPEI) で中心的役割を担っています。

- 世界保健機関 (WHO)
- UNICEF (国連児童基金)
- 米国疾病対策センター (CDC)
- ビル&メリнда・ゲイツ財団
- ドナー国政府

企業パートナー

- Red Nose Day Fund of Comic Relief USA
- グローバル連携省 (カナダ)
- DollarDays
- Giantmicrobes
- MyPostcard



プロジェクトのパートナー

- ShelterBox

奉仕のパートナー

- アショカ
- ハビタット・フォー・ヒューマニティー
- 国際失明予防協会
- 国境なき調停者団
- 米国平和部隊 (Peace Corps)

戦略パートナー

- 経済平和研究所
- 米国国際開発庁

国連

- 国際ロータリーは、世界の15の首都で、国連機関や国際組織と活動する代表者を任命しています。